20周年記念事業はじまる

富士砂防だより

発　行
富士山直轄砂防
20周年記念事業
実行委員会
建　設　省
富士砂防工事事務所
富士宮市三園平1100
電話(0544)27－5221

二市一町及び関係機関から成る
記念事業実行委員会設立

去る八月二十一日に、地元二市一町の首長及び関係機関の方々からなる二〇周年記念事業準備会が開催され、「富士山直轄砂防二〇周年記念事業実行委員会」と記念事業の内容が決定されました。

委員長に吉田富士宮市長が、副委員長に渡辺富士市長が選出され、地元二市一町及び関係機関が一体となって、各種記念事業が今秋から来秋にかけて行われることになりました。

既に去る十月十五日に「見学会」が、二十四日に「植樹祭」が行われました。

あいさつ

二〇周年記念事業実行委員長
富士宮市長　吉田　廉

昭和四〇年代の初めに富士山が大沢川の崩壊により、二つに割れてしまうとさけばれ大きな社会問題になりました。このことが契機となって、昭和四十四年に国は直轄事業として富士山砂防工事に着手しました。以来、砂防事業は、二十年の歳月を数えるところとなりました。

この間、大沢扇状地対策事業に約二七〇億円の巨費が投じられ、砂防施設は、ほぼ八〇パーセントの完成を見るに至っております。また、昭和五十八年からは弓沢川・足取川などの支川でも直轄事業を行っており、これまでに七基の砂防ダムが完成したほか、現在、五箇所において工事を施行中であります。

「富士山直轄砂防二〇周年記念事業」は、これら砂防事業の進捗を記念し、住民や関係者の皆さんに砂防事業への関心や理解を深めて戴き、さらに将来に向けてより一層の促進を図るため実施するものです。

記念行事は、大沢扇状地の植樹祭を始め、大沢崩れ現地見学会、またはシンポジウムなどを実施しますが、地域の皆さん方の積極的な参加を心からお願い申し上げます。

記念事業

テーマ「創り出そう　富士山との優しいふれあいを」

既に行われた事業

1．大沢崩れと御中道見学会
●平成元年10月15日(日)

2．植樹祭
●平成元年10月24日(火)

これから行われる事業

植樹祭
緑の砂防ゾーンの創出
小学生を中心とした一般の人びとの参加による植樹祭。

●場所／大沢扇状地
●期日／平成2年4月～5月

講演会
●内容／
富士山と私
●講師／
山岳写真家 白旗史朗氏
●会場／ホワイトパレス富士市農協会館
●期日／平成2年2月8日
●入場料／無料

記念式典
●テーマ／
富士山のなりたちと明日の姿
基調報告とパネルディスカッション
●内容／富士山のなりたち(地形と地質)
富士山の植物の進展／富士山麓の開発と進展
富士山の防災対策／わが町の明日の姿
●会場／富士宮市民文化会館
●期日／平成2年7月下旬

シンポジウム
直轄砂防事業開始
20周年の記念式典
●会場／富士宮市内
●期日／平成2年10月上旬

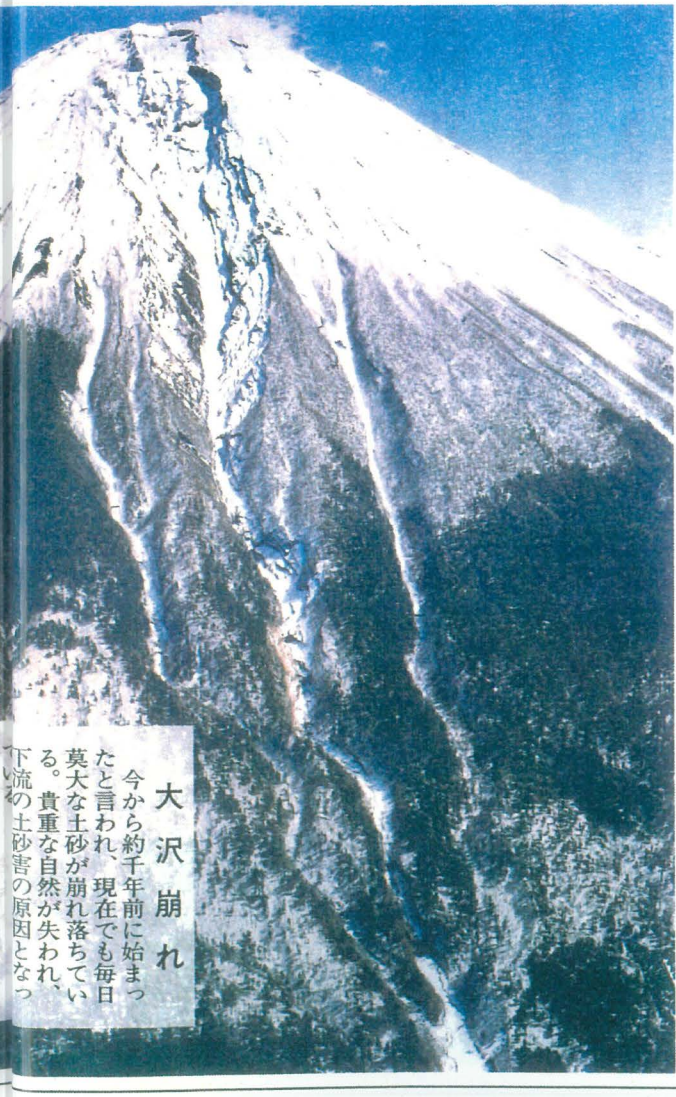
が大沢崩れの源頭部を訪れました。

職員 50名　その他、雑誌"週刊新潮"、"土木施工"
ラブ 20名　取材班など、
職員 30名
加者 65名　のべ人員約**200名**

大沢崩れの縁にオッカナビックリ佇む一般参加者

滑沢を行く老若男女、足元と上流からの落石に気づかいながら荒地を横断する。

9月13日 源頭部を訪れた富士宮市の一行



大沢崩れ

今から約千年前に始まったと言われ、現在でも毎日莫大な土砂が崩れ落ちている。貴重な自然が失われ、下流の土砂害の原因となっ

富士山生誕の歴史を秘める崩壊南斜面、玄武岩質の溶岩の層とスコリヤ層(噴出砕屑岩)の互層からなっている。スコリヤ層から崩壊が始まり、次いで溶岩が落下する。

グラフ見学会

■この秋、おおぜいの人々
- 9月13日／富士宮市議員及び職
- 9月27日／地元記者クラ
- 10月6日／芝川町議員及び職
- 10月15日／一般見学会参加

―大沢・御中道見学会―

ミヤマシャジン

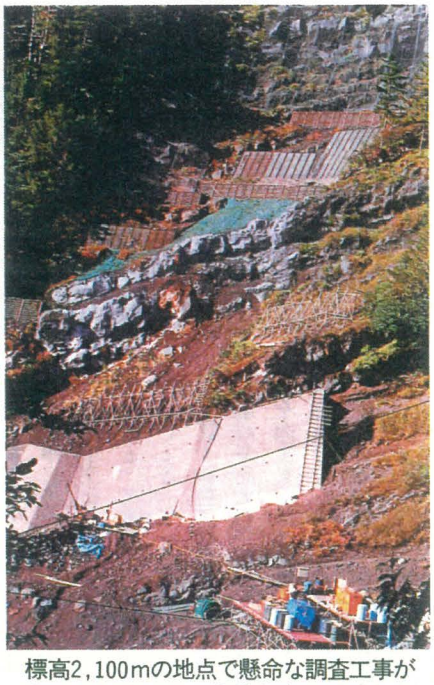
「豊かな自然」

大沢沿川にはカラマツの巨木が生い茂り、その下には可憐な草花が咲き乱れている。

カラマツ・ナナカマドの紅葉

「失われる自然」

大沢崩れの縁では崩壊が進み、樹木の根が露出し枯死し、やがて風倒木となる。


標高2,100mの地点で懸命な調査工事が進められている。作業効率と現地への適応工法の検討が行われている。

植樹祭

10月24日に富士宮市立東小学校6年生約120名、実行委員会50名の参加により行われた。

植樹に先立ち大沢崩れの勉強

実行委員長吉田富士宮市長のあいさつ

～記念樹の植樹～

とまどい、楽しみながらの植樹。
（おじさん、お兄さんの手もかりて）

おねがい――

建設省富士砂防工事事務所が、大沢崩れの対策を始めてから二〇年、扇状地には広大な遊砂地がほぼその全容を現わし、下流地域の安全度は飛躍的に向上したものと自負致しております。この間の地域の皆様方の力強いご支援とご協力に、深く感謝申し上げます。

大沢崩れの対策は、より困難な崩壊の拡大防止に工事の重点が移りつつあります。また、昭和五十八年から始まりました、大沢以外の渓流の砂防工事につきましても、富士山三六〇度の土砂害防止の責務を負う当事務所の役割をしっかりと認識しつつ進めて参りたいと思います。

工事に当たっては富士山の貴重な自然や文化を十分に勉強し、この地域にとって最善の方法を選んで行きたいと思っています。

富士砂防工事事務所は皆様のご要望にお応えし、引続き地域の安全度を向上し、皆様の生命と財産を守るため努力して参ります。どうぞたくさんのご意見、ご要望をお寄せ下さい。また今までと変わらぬご支援ご協力をいただけますことを切にお願い申し上げます。

富士砂防工事事務所長
寺本和子